

不二健育会 舟渡おとしより相談センター

中村啓子（職種/介護支援専門員 /所属部署 包括）

功 績 当センターの把握している『虚弱高齢者（事業対象者）』について、対象者の掘り起こしと、社会資源『元気力向上教室（区事業）』への連携数が一桁と少なく課題となっていた。中村は、「フレイル予防の啓発」を課題として地区ネットワーク会議で話し合い、地域の意見を問入れた上でPDCAを回し、事業対象者29名の把握に繋げ、元気力向上教室へ7名の参加者を案内することができた功績。

推 薦 者 鈴木 穰（包括主任）

推 薦 理 由 「フレイル予防」について、「如何に住民に啓発するか」といった長年の課題について、中村は自発的に研修へ参加し包括ミーティングで共有。地域住民も意識を上げる必要性から、地区ネットワーク会議で「フレイル予防の啓発」の対策を参加者と検討。

その意見を参考に、当センターで取り組み方法を検討。突発的に実施するのではなく、PDCAサイクルを意識し、また当センター以外の地域住民の意見も取り入れられた、長期に渡るこの努力は、対人援助職として手本としていきたい功績であり、理事長賞にふさわしいと思い、推薦させていただきます。

内 容

当センターでは、虚弱高齢者が要介護状態にならないための「フレイル予防」への取り組みも欠かすことができない。

要支援・要介護の介護認定までには至らないまでも、このままの生活をしていると、要介護状態になってしまう恐れのある対象者を「元気力チェックリスト（基本チェックリスト25項目）」で把握する。そのリストで何らかのリスクに該当した方を”事業対象者”として介護保険証に登録。その上で、“元気力向上教室”を利用することとなる。

元気力向上コースには、「運動コース」「健口カムカムコース」「食事のできる体づくりコース」「元気はなまるコース（認知症予防）」の4コースがあり、毎週1回3時間で3か月通うコースがある。若干の費用とバス送迎がないことから、利用者が少ない傾向がある。

「フレイル予防の啓発」の取り組みについて、昨年、地区ネットワーク会議以下の意見があった。

- 1 対象者の母数を増やす。
- 2 対象者を起こすために、積極的に地域へ出向く。

このご意見を反映し、今年度以下のように取り組み成果があった。

6/25 舟渡測定会 参加者18名 事業対象者12名 教室参加者 3名

7/19 新河岸測定会 参加者24名 事業対象者17名 教室参加者 4名

今回、測定会の周知に力をいれた。会場近くの自治会長5名を訪問。1回目は、当センターのPRと地域の

高齢者に状況をお聞きし、2回目に測定会のチラシの配布、掲示のお願いに訪問した。老人クラブ2か所へも自治会長と同様に2回訪問した。

周知方法として、当センター職員が地域のキーパーソンへ直接訪問し、関係性を深め、測定会の趣旨説明をして、地域住民への周知に協力していただいた。今回のように、当センターだけでなく、地域の住民を巻き込みながら、「地域で取り組むフレイル予防の啓発」をこれからも目指していきたい。

※ネットワーク会議……各地域包括セインセンター圏域ごとで、高齢者等を支援する機関及び団体の代表者にご出席頂き、高齢者支援における課題の検討を行い多職種の連携を進めるための合議体です。

出席者：医師会、薬剤師会、歯科医師会、民生児童委員、町会、老人クラブ、基幹型支援センター、健康福祉センター、福祉事務所、社会福祉協議会等の代表